

Arequipa, PERU

Bhaktapur, NEPAL

Gujarat, INDIA



2001



1934



2001

Kamakura JAPAN

Kobe, JAPAN



1923



1995



立命館大学・イコモス ICORP 国際シンポジウム

文化遺産を災害からどう守るか 防災と災害復旧

"How to Protect Cultural Heritage from Disasters:
Risk Preparedness and Post Disaster Recovery"

入場無料
同時通訳あり
(日・英)

2010年9月26日(日) 13時~17時半(開場12時半)

立命館大学衣笠キャンパス 歴史都市防災研究センター・カンファレンスホール

主催：立命館大学歴史都市防災研究センター

共催：イコモス文化遺産国際学術委員会 (ICORP ; ICOMOS International Committee on Risk Preparedness)

後援：外務省、文化庁(申請中)、日本イコモス国内委員会、京都府、京都府教育委員会、京都市

お問い合わせ先 立命館大学 歴史都市防災研究センター (平日 10時~17時)

TEL 075-467-8801 FAX 075-467-8825 E-Mail dmuch@st.ritsume.ac.jp HP: <http://www.rits-dmuch.jp/>

文化遺産を災害からどう守るか 防災と災害復旧

今年 1 月のカリブ海地域ハイチの大地震では、20 万人近い死者行方不明者が発生し、世界遺産をはじめとする多くの文化遺産が破壊された。世界中の支援部隊による復興作業が既に始まっているが、イコモス・ハイチ特別委員会では、被災した文化遺産の破損部材の確保方法など、復旧過程における文化遺産の保護に関して多くの課題を指摘しており、これらに適應する文化遺産防災の指針策定を急務としている。

文化遺産は災害で破壊されるだけでなく、その復旧過程においても破壊されるという認識は、日本では 1995 年に起きた阪神淡路大震災にて広まったが、これは今や世界で共有されるべき認識となっている。

本シンポジウムでは、イコモス文化遺産防災国際学術委員会 (ICORP) 等の国際的専門家とともに、文化遺産を守るために、災害復旧という観点も含めた防災について、京都および世界の現状を検討し、今後の課題や取り組みの指針を京都府市民および世界に発信することを目的としている。

プログラム

開会挨拶

講演 1 「文化遺産防災－ユネスコ・ニューデリー事務局からの視点」
千葉茂恵 (ユネスコ・ニューデリー)

講演 2 「世界の文化遺産防災の現状と課題」
グスタヴォ・アローズ (イコモス会長)

講演 3 「近未来における京都の文化遺産」
土岐憲三 (立命館大学教授、立命館大学歴史都市防災研究センター長)

成果報告「ユネスコチェア『文化遺産と危機管理』国際研修 2010」
益田兼房 (立命館大学教授)

休憩

パネルディスカッション「文化遺産を災害からどう守るか：京都と世界」
司会：益田兼房 (立命館大学教授)
パネリスト：ロヒト・ジグヤス (ICORP 会長)、邱上嘉 (国立雲林科学技術大学副学長)
砂原秀輝 (教王護国寺総務部長)、スー・コール (ICORP 副会長)

質疑応答

閉会挨拶



立命館大学 歴史都市防災研究センター

〒603-8341 京都市北区小松原北町 58
TEL: 075-467-8801 FAX: 075-467-8825
<http://www.rits-dmuch.jp/>

- JR・近鉄 京都駅より：◎市バス50・快速205「立命館大学前」下車 約35分
◎市バス205「衣笠校前」下車 約35分、さらに西へ徒歩10分
◎JRバス立命館大学經由周山行き「立命館大学前」下車 約30分
- JR (嵯峨野線) 円町駅より：◎市バス快速202・快速205「立命館大学前」下車 約10分
◎市バス205「衣笠校前」下車 約10分、さらに西へ徒歩10分
◎JRバス立命館大学經由周山行き「立命館大学前」下車 約10分
- 阪急電鉄 西院駅より：◎市バス快速202・快速205「立命館大学前」下車 約20分
◎市バス205「衣笠校前」下車 約20分、さらに西へ徒歩10分
- 阪急電鉄 河原町駅 (四条河原町) より：◎市バス12・51「衣笠校前」下車 約40分
- 京阪電鉄 三条駅より：◎市バス15・59「立命館大学前」下車 約30分
- 京福電鉄 (北野線) 等持院駅より :◎北東へ徒歩約10分